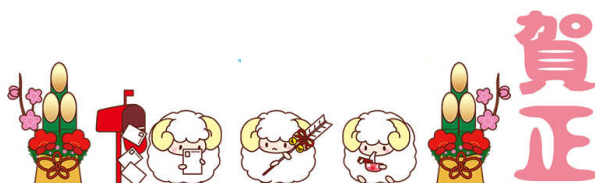


中央公民館だより

平成 27 年 1 月 1 日発行
三原市中央公民館
三原市円一町 2 丁目 3 番 1 号
TEL 0848-64-2137 Fax 64-0137

未年 新たなる連帯の気運胎動

あけまして
おめでとうございます



今年は無年一。干支の縁起話として、群れをなす羊は家族の安泰（無事で安らかな様）を表し、いつまでも平和に暮らすことを意味しているそうです。干支の特徴は、穏やかで人情に厚い…

羊は古くから家畜として飼育され、羊の毛は織物、肉や乳は食用にされるなど、大変有用有益な動物です。中国では、「馬、牛、羊、鶏、犬、豚（ぶた）」の六畜のひとつに挙げられています。

「羊」という字は、ヒツジを正面から見たときの角と上半身を表した形で、後ろ足までの全体を表した形が「美」で、成熟したヒツジの美しさを表しているとか。そのため、羊がつく漢字も多く、祥、翔、義、美、羨、善などよい意味をもつものに用いられることが多いようです。

中国、戦国時代の史書『戦国策』に“群羊を駆りて猛虎を攻む（ぐんようをかりてもうこをせむ）”という慣用句があります。力が弱いもの（羊）でも、集まって一体化すれば力を発揮でき、虎のような強いものをも倒すことができるという意味です。難事にあたるときの教訓として引用されます。

昨年は、痛ましいニュースで気が塞ぐことが多々ありました。今年は、干支にあやかって世が安定し、安穏平和な世の中でありますように…、そして、できる限り多くの地域の皆さんと連帯し、生涯学習の拠点としての公民館が絆づくり・まちづくりにさらに貢献できますことを切に願っています。本年もよろしくお願いたします。

白熱企画

“三原ふるさと子ども博士講座”

マナビイくんの
うるうる感涙物語



今回突撃取材したのは「三原ふるさと子ども博士講座」です。この講座は三原市内の3～6年生（抽選40名）を対象に年間7回の自然・歴史・産業等の体験学習を経てふるさと三原を知らせ、ふるさとに誇りを持たせ、次世代への郷土愛を育む狙いで子ども博士を育成する講座です。（市長部局と教育委員会が協力して実施しています）7回の講座内容は、①やっさ踊りと江戸時代の消火活動②栽培漁業見学と稚魚放流・三原の夜空の見学③ポポロパーク見学とご当地スポーツ体験④空港見学と三原ブランド（錦鯉・クリームパン工場）見学⑤県立歴史民俗資料館・みよし風土記の丘での原始・古代体験⑥宇根アイキャンプと天体観測⑦”ようこそ先輩”三原が生んだ絵本作家永井郁子先生との絵本作り、と多方面へわたる体験を企画してあります。40名の児童は、8名5班で編成され、異年齢でももちろん学校も違う偶然出逢った縁で、協力し行動して7回の講座期間を過ごすこととなります。体験やワークを通してこの講座を終える頃には、自分の好きな事や興味がわくもの、知る喜びや観て感じる感動の気持ちを味わっていると思えました。また、一緒に様々な経験を重ねるうちに人の気持ちを感じ取る力や人に伝える方法や一緒に取り組む達成感も得られているに違いないと思えました。数年後、偶然どこかで再会するかもしれない可能性もある、同じ時を共有する仲間との出逢いを想像するだけでもワクワクしてきます。

錦鯉養魚場で「僕は将来こんな仕事がしたい。」と発言した子がいたそうです。夢や希望があって目の前の勉強をするのと、よい成績を取るだけの勉強は意味がちがってくることに気が付いた子だったのではと感じました。将来きっと市内外問わず、大きくは県外、全国でふるさと三原を誇りに活躍する人物を誕生させる可能性をもった講座だと感じました。

12月7日講座最終日に、閉講式がありました。「三原ふるさと子ども博士」認定証と認定紋章バッジが授与されました。この講座の担当職員が閉講式用に用意した活動報告のムービーのリアル試写をさせてもらいました。思わず感涙していました。最後にその担当職員の熱いメッセージを載せておきます。次年度にはさらに、異年齢で活動する意義や、協力し合う力・教え合う力の育成を目標に取り組みたいと語っていました。（k）

ふるさと子ども博士の皆さんへ 三原市教育委員会生涯学習課 森政航太

この講座は、三原市の未来を担う皆さんに三原のことを深く知ってもらい、君たちの住む、ふるさと「三原市」をもっともっと、好きになって欲しい!! そして、自分たちのふるさとを誇りに思ってもらえるように! そんな願いを込めて、開催してきました。私達の想いは皆さんに届いたでしょうか? 皆さんは講座を通してたくさんの人に出会い、たくさんの経験をしました。この三原市には、皆さんの知らない素晴らしいところはまだ、たくさんあります。この講座を終えても「なんでじゃろ?」という気持ちを大切に好奇心を持ち続けてください。そして、全7回の体験学習を共にした仲間との思い出を大切に、大切に…皆さんは、ふるさと三原の宝として大きく育っていくことですよ!



とっておきの真冬の夜の講座『オリオン座界限』

今回は夜空を舞台にした、とっても大きなお話です。

霜の降りる寒い夜は、大気も安定して星の観測に最も適しています。そんな厳しい寒さに映える『オリオン座』は、何といても冬の星座の代表でしょう。四辺形に三ツ星のベルトをきりりと締めた姿は、真夏の赤い心臓をもった、さそり座と人氣を二分する大スターだと思います。

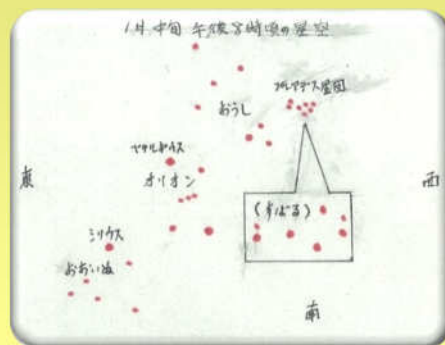
さて、左肩の赤い星『ベテルギウス』は、知られている中で10番目くらい、太陽の直径の千倍あるかという超巨大な星だそうです。星の進化は、黄色い太陽のような青年期の星からシリウスのような壮年期の高温の青白い星を経て、エネルギーをほとんど使い果たし、温度の低い老年期の赤い星へと移行するといわれます。内部では水素の核融合で出来たヘリウムが再び、核融合を起こし、どんどん重たい元素が作られ、それと共に膨らんで、太陽の位置に置き換えると木星の軌道を飲み込む程、大きい星です。そして最後には超新星爆発といって大爆発と共に、蓄えた多くの種類の元素を宇宙に撒き散らして一生を終えるといえます。何億、何十億光年の天文学的数字のこの世界でベテルギウスと地球の間は、光で640年とそれでも比較的手頃感がします。今、眺めている瞬きは日本で南北朝、金閣寺を建てた足利将軍義満の時代に出発した光で、ひょっとしたら今、向うでは既に爆発してもう無いのではとの観測もあります。母なるこの地球も今、星を眺めている私たちの身体も全て爆発で宇宙に飛び散った元素が再び、寄り集まって出来ており、いふならば良い意味でのリサイクル品ともいえます。

さて、オリオン座から少し右に目を向けると、おうし座『プレアデス星団』がまとまって、とても綺麗です。別名は某自動車のエンブレムにもなり、谷村新司さんの歌でも有名な『スバル』です。望遠鏡でなくても5個から7個の青白い星の集団が見えます。外国語かと勘違いしますが、我が国では昔から『すばる』と云われ、『昴』の漢字もあります。

そして、オリオンを追いかけるように左から昇るのが、おおいぬ座の『シリウス』で中国では『天狼星』といわれています。8.5光年とそれでも比較的、地球に近く、太陽に次いで明るく輝く星です。古代エジプトでは、既にシリウスの運行を元に1年は365日だと知られていました。そのシリウス暦では太陽に先駆けて一瞬、早く昇る日を夏至として新年の始まりとしました。それはまた、肥えた土を河岸にもたすナイル川の増水が、始まる目安でもあったそうです。

宇宙の年齢に比べれば、象に次いで長いという人間の寿命も星の瞬きにも似ています。その儚い時間でも生きがいや趣味を持つことで結構、長く感じられるものです。十年先のことよりも明日の課題解決のため、ややもすると伏せ眼がちとなりますが、寒空の下、10分の星空観察は続かないとしても、車のドアから我が家の軒下までの間だけでも星空を眺めながら悠久の時の流れのほんの一部を共有したいと想っています。

生涯学習課 主幹 寺西 豊和



1月の体験講座開設予定

講座名	開催日時	対象	受講料・材料費	持参物	定員	申込期間
親子ストレッチ (あんよ)	1月19日(月) 10:00~11:00	1~3歳児 と保護者	受講料 100円	動きやすい服装 バスタオル、タオル 水分補給用飲料水	30組	1月5日 ~1月16日
カルトナーージュの 世界ようこそ!	1月26日(月) 13:00~16:00	大人	受講料 100円 材料費 1,320円	筆記用具 お手拭タオル	12人	1月5日 ~1月19日
幼子にタオルで作る 手づくりおもちゃ	1月27日(火) 13:00~15:00	大人	受講料 100円 材料費 300円	筆記用具 裁縫道具	15人	1月5日 ~1月20日

お詫び 11月1日発行の中央公民館だより 冒頭、生涯学習フェスティバルの報告において、実施日が『11月1日(土)、2日(日)』のところ、『11月2日(土)、3日(日)』となっております。記述に誤りがあり、ご迷惑をおかけいたしましたこと、謹んでお詫び申し上げます。

編集後記

前述の三原ふるさと子ども博士講座に関わることですが、以前、東京学芸大学名誉教授の児島邦弘先生から、こういう話を聞いたことがあります。「大学生に知識に関する基礎的な調査をしたところ、『トンボの羽は4枚ある』と答えられない学生がいた。2枚では飛ぶことができないにも関わらず…。つまり、全く経験に裏打ちされていない知識は、劣化が速く忘れられやすいのです。“知の剥落”ということです。」と。

すべての学びに経験が必要かと言えば、そうではありません。しかし、この講座を受講した子どもたちの知的好奇心、活動意欲、連帯する姿、達成感・成就感、満面の笑顔等々を見るにつけ、学びの原点は“良質な体験”である、と確信せずにはいられない8日間でした。子どもたちの将来の“引出”がまたいくつか増えたように思います。(N)